

車

二年
画数 7
筆順 一 亅 車
オン シヤ
クン くるま



成り立ち

二つの「車輪」をつけた「車」のかたちをあらわした字で、「くるま」ということはをあらわした字です。車輪がついていて、それでうごく「のりもの」のいみにつかわれますが、また、のりものでなくても、「くるくるとまわるもの」のいみにもつかわれます。めいじじだいは、「くるま」といえば「人力車」のことをいみしましたが、いまでは、「自動車」のことをいみます。

「車」のついた字いろいろ

車輪の「輪」(4年638)、車庫の「庫」(3年297)、「連」(4年644)、「軍」(4年497)、「運」(3年256)、「転」(3年380)。

使い方

▽そとにでると、たくさんの車くるまがはしっています。どこにあわないように、ちゆういしましよう。
▽森の中では、こなをひく水車みづぐるまが、コットン、コットンと、まわっていました。

熟語例

▽人力車ジリキシヤ(むかし、つかわれていたのりもの、「車輪」が二つついていて、人がひっぱってうごく車)
▽水車スイギキ(水の力で車くるまをうごかして、こなをこまかくひきくたくし。かけ。みずぐるま)
▽車輪クルマ(車の輪。くるくるまわって、まえやうしろにうごくようになっているしかけ)
▽車庫クルマコ(「車」を入れておくためのたてもの。庫くらがもともと「車庫」といういみの字ですが、車にかぎらず、ものをに入れておくところのいみにつかわれるようになったので、「車庫」というようになりました。)

手

二年
画数 4
筆順 一 三 手
オン シユ
クン て・た



成り立ち

五ほんのゆびをもった「て」のかたちをあらわした字で、「手」といういみの字です。

「うで」といういみにもつかわれ、「うでまえ」といういみにもつかわれます。また、「はたらきて」といういみから、「ひと」といういみにもつかわれます。

「て」のいろいろ

才 又 ナ 一 三 手
拾 友 左 書 雪 受 専
フ ヨ フ ヨ ヨ ヨ ヨ
フ ヨ フ ヨ ヨ ヨ ヨ
フ ヨ フ ヨ ヨ ヨ ヨ

使い方

▽はたけの「手入れ」に「人手」がたりなくてこまっています。「手伝い」にきてください。
▽わたしは「手芸」が「下手」ですが、あなたはとても「上手」ですね。

熟語例

▽手入れ(「手」を入れる)ということで、「しゅうぜん」「めんどろ」「せわ」などのいみにつかいます。
▽人手(「はたらき手」のいみ。そのほか「たすけ」「ほかの人のもの」「人がつくったもの」などのいみ)
▽歌手(「歌い手」ということで「歌う人」といういみのことばです。)
▽選手(「選ばれた人」といういみのことばです。)
▽名手(「名人」。うでまえのすぐれた人)
▽手腕(「腕」は「うで」。「うでまえ」。「しごとをするちから」といういみにつかわれます。)
▽上手(「上」は「すぐれている」いみ。「手のはたらきがすぐれている」といういみです。)
▽上手の手から水みづがある(どんなに上手な人でもしっぱいすることがある、といういみのたとえ)